

<2025 年、新年挨拶>



代表理事：連健夫

JCAABE 会員の皆様、明けましておめでとうございます。当団体は**良質な建築、美しいまちづくりを目指す社会改善型**の一般社団法人として設立 8 年目を迎えました。

昨年、「JCAABE 建築系まちづくりファシリテーター養成講座」が日本建築学会教育賞と日本工学教育協会工学教育賞を受賞し、当機構の地道な活動が評価されたものと心から感謝する次第です。文科省事業採択から始まり、講座設置校は 8 校となり、オンライン社会人・学生講座の受講も着実に増えております。この活動を広げるべく広報活動と共に工夫改善も進めていきたいと思っております。

新たな事業として実施した「日常と非常時をつなぐデザインコンクール」は、防災の概念を広げ日常の活動に繋げることの大切さを、選定プロセスを通して再認識することができました。全国から 54 作品(一般 16、学生 38)の応募があり、総合資格学院での公開審査会で伝播力のある優れた受賞作品が選出されました。これらは、**art Gallery & Legion** で受賞作品の展示会とトークを実施し、また学生部門最優秀賞受賞者は **Good Air Expo** (日本室内保健協会主催) にてプレゼンテーションするなど、成果の発信を行いました。これらはホームページに掲載されていますので、是非、ご覧ください。

他団体連携活動として、**JIA 建築家大会 2024 別府**では、まちあるきワークショップに協力し、参加建築家に事前にファシリテーターのレクチャーや資料提供等のサポートをしました。別府市、行政の協力や大分大学の先生や学生のサポートを頂くなど、住民、行政、専門家、大学との連携が実現しました。

当団体は、**建築・まちづくりの専門性を表示する資格とそのための研鑽**を主軸に活動していますが、これを明らかにすることは、発注者や住民の判断材料となり、行政における**専門家派遣制度**の拡がりの中で、今後ますます大切になってきます。その意味で、認定まちづくり適正建築士、ADR 調停人、登録まちづくりファシリテーターの資格の輪を広げていくことは、日本が成熟社会に向かう中で大切な運動とも言えます。メタデザイン(直接的なデザインではなく、間接的なデザイン行為)という言葉が注目されていますが、当機構の活動にも関連するかと思われます。

今年度は、会員間における対面での懇親やコミュニケーションの機会を増やしていきたいと思っております。この一年、**皆様にとって意味ある年**になることを心から願い、新年のご挨拶とさせていただきます。